

# 和の粋、職人の技。日本文化にふれる。



現在、全国に8軒しかない市松人形職人のうち、  
実に3軒が墨田区に集中しています。  
市松人形文化をリードする存在・藤村光環さんにお話を伺いました。



デジタルが主流となった時代だからこそ、  
縁起物としての「描き文字」の味や温もりが注目されています。  
江戸文字職人・大石智博さんにお話を伺いました。

## 市松人形 藤村光環さん



昭和28年新潟県出身。芸術一家に生まれ、画家を志す。アルバイト中に看板描き屋の筆耕・福島栄峰氏に出会い、この道に。独立後、墨田区に移住。体験工房には、日本全国からの修学旅行生や地元の子もたちが訪れる。

**手づくりの人形の魅力は  
皆それぞれ表情が違うこと**

人形は、土地の文化や歴史に寄り添うもの。特に、日本人形の発展の仕方は独特なんです。市松人形が登場したのは江戸時代だとされ、生まれた子が無事に成長することを願うお守り、身代わり人形として飾られていたようですよ。時代が進むにつれ、お母さんが娘に着物の着方や縫い方を教えるために使われたり、用途もさまざまになりました。手づくりの人形の魅力は、皆それぞれ表情が違うこと。

お子さんの顔に似せた人形のご注文も多いですね。現在市松人形職人は全国で8軒のみ。うち2軒は私の弟子です。弟子には、必ずお前たちも弟子をとって一人前に育てるよと伝えていきます(笑)。私も身も体験工房などで、一体の人形を完成させるまでにかかると、手間や細やかな技術、職人の呼吸などを伝えることで、美しくて優しい市松人形の文化を後世に残すお手伝いをしていきたいですね。

## 江戸文字 大石智博さん

**人情を大切にしながら、  
江戸町人の心意気を伝えたい**

江戸時代、幕府が定めた書体「御家流」に反発して生まれたのが江戸文字だといわれています。「そんな細っこい書体使ってもらえるか!」と、太くて力強い江戸文字を看板などに描いたんです。文字が右肩上がり書体なのは、商売も右肩上がりになりますように、角が跳ね上げてあるのは、運氣が上向きますように、などの想いが込められているそうです。

私が墨田区に住むようになったのは独立後のこと。周囲の方々に支えてもらい、育てていただきました。江戸文字に携わる者として特に大切にしているのが、体験工房を訪れる子どもたち。「漢字は部首同士の思いやり。どれか一つが大きくてもだめ。下町と同じようにお互い様が大切なんだよ」と教えています。そうすることが、手描きのぬくもりを通して江戸町人の心意気を未来へ伝えることになると思うんです。

昭和36年新潟県出身。芸術一家に生まれ、画家を志す。アルバイト中に看板描き屋の筆耕・福島栄峰氏に出会い、この道に。独立後、墨田区に移住。体験工房には、日本全国からの修学旅行生や地元の子もたちが訪れる。



産業観光プラザ すみだ まち処  
MAP P47  
●東京都墨田区押上1-1-2  
東京スカイツリータウン・ソラマチ5F  
●10:00~21:00(不定休)  
※開設時間は各ゾーンで異なります  
●03-6796-6341



また、さまざまな伝統工芸のものづくり実演やイベント、ワークショップなども随時開催。ぜひ参加してみてください!

## 「すみだまち処」

すみだの情報はここへ!

東京スカイツリータウン・ソラマチ5階にある産業観光プラザ「すみだまち処」は、すみだ観光情報の発信拠点。まち歩きのおすすめコースをご案内するほか、すみだが誇るこだわりの逸品も展示・販売しています。ゆったりくつろげる「茶屋」の和スイーツやおいしいコーヒーも好評です。

アトリエ創藝館[工房ショップ]  
MAP P46  
●東京都墨田区横川3-8-2  
●10:00~18:00(不定休)  
●03-3622-2381

漢字好きの  
外国人観光客の  
方にも大好評



## 初めての 江戸文字体験!

渡されたのは、舞台の座席表。「マスで囲まれた座席表の上に、好きな文字をできるだけ大きく、太く描いてください」。まずは普通にマスいっぱいには字を書き、そこから線を太くしていく。……これがなかなか難しい! 大石さんいわく、「もっと大きく描いてください。客席をすべて塗りつぶすことが目的なんです。空いている客席をゼロ口にして、満員御礼を願うんです」。今回の体験は初歩の初歩。次回は提灯や扇子にも文字を描いてみたい!